

あみの一也の政策

子ども・若者

- 学校給食の無償化
- 奨学金支給(市独自)の実現
- ひとり親家庭への家賃補助の増額
- 国民健康保険税・子どもの均等割りの負担軽減・減免を

コロナ対策

- 保健所機能の強化、気軽に受けられるPCR検査の推進

介護・高齢者

- 「24時間介護」を早朝や深夜も市内でできる体制づくりを推進
- 補聴器購入補助制度の導入を
- ケアラー支援条例の制定
- 介護従事者の家賃補助制度(単身者向け)を単身者以外にも拡大を

ジェンダー平等

- 包括的性教育の早期からの実施。リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)の普及・促進

平和

- 国立から核兵器廃絶、平和の発信を

環境

- 有機フッ素化合物(PFAS)の実態調査や対策強化を
- 気候危機対策…国立市の目標引上げ。公共施設の省エネ・再エネ活用の促進

有機フッ素化合物(PFAS)の実態調査と対策を進める



2月3日、都に対策強化を要請

フリーランス・中小企業

- インボイス制度の中止

地元

- 国立駅にホームドア設置の早期化
- 不要不急な都市計画道路の中止
- 通学路や生活道路の整備
- 子どもの遊び場の整備・拡充
- 子どもの豊かな環境体験を



日本共産党

福祉の現場で43年

国立市議予定候補

(網野かずや)

あみの一也

新人

【プロフィール】 ○神奈川県横浜生まれ ○国立市北3丁目在住 ○横浜市立南高等学校卒 ○しょうがい者施設で43年勤務。施設長を経験。現在、共産党国立市議団事務局員 ○趣味:家庭料理づくり、旅行

私の決意

あみの一也

私は、当時めずらしかった自閉症の子どもたちの通所施設や、重度しょうがい者グループホーム、生活介護事業所などで、43年間勤務してきました。自閉症や知的しょうがいを持つ方のための施設の立ち上げに関わり、施設長も務めてきました。

しょうがいのある方は一人ひとり個性や特性が異なり、一人ひとりにあった支援・福祉が必要です。しかし国の制度は、一律に働けるようにすることばかり求めるなど、実態にかみ合っていないことを痛感してきました。「一人ひとりにより充実した生活を提供したい」という思いを強く感じてきました。

国連の障害者権利条約で国際基準が定められていますが、日本の現実はあまりにもかけ離れてしまっていることが背景にあります。

職場を退職し、しょうがいのある方もない方も、一人ひとりが自分らしく生きられる社会を作るために、市政を変える取り組みに挑戦したいと決意しました。よろしくお願いいたします。

私からバトンタッチ

市議会議員 柏木ひろし

これまで市民の皆様から多大なるご支援とご協力いただきありがとうございました。この度私自身の強い希望で、これまでとは別の道を進むことになりました。

今後は、私が尊敬するあみの一也さんへ、皆様のご支援とご協力を、ぜひともよろしくお願ひします。



市政を変えるため

日本共産党

3人のベストチームでがんばります



【ご意見・ご要望】 ☎042-507-6807 amino.jcp@gmail.com

大軍拡ノー
9条生かした
平和外交を

あみの一也さんと一緒に
私も頑張ります



日本共産党参議院議員
吉良 よし子

水道水PFAS(有機フッ素化合物)汚染の調査・対策強化を

2023年3月号外/発行: 明るい国立社 042-576-0655/日本共産党国立市委員会の見解を紹介いたします。





しょうがい者福祉で43年。 人と環境にやさしい街をつくる あみの一也

自分らしく生きられる社会を

しょうがいのある人もない人も 共に暮らせる地域づくりに奮闘

しょうがいのある方の通所施設などを建設する際は、土地の確保、周辺住民のみなさんへの理解と協力を得る活動、職員募集などを、他の施設職員と一緒に取り組み、事業スタート後は施設長として関わってきました。あみのさんは、しょうがい者福祉の現場がよくわかる人です。



2016年神奈川県相模原市で起きたしょうがい者施設での事件に、大きなショックを受けたあみのさん。またしょうがい者を切り捨てるような考えを犯人がもっていたことにも、強い憤りを感じました。しょうがいをもつ方の家族は、愛情をもって育てており、いつまでも愛情をもちつづけていることを、何度も見てきたからです。生産性や社会の役に立つかどうかだけで人を判断する傾向が広がっているもとで、お互いの存在を認め合い、一人ひとりが自分らしく生きられる社会をつくらなければという考えを強くしてきました。

しょうがいのある方や ご家族とともに歩む

自閉症の子どもたちの通所施設、重度しょうがい者グループホーム、生活支援事業などで43年間勤務してきたあみのさん。

利用者との信頼関係をつくることは、簡単なことばかりではありませんでした。同時に、緊張した様子だった利用者や、好きなことを一緒にやる中で、表情が和らぎ、受け入れてくれてもらえたと感じられることも。

利用者の本当の気持ちが分かり、お互いの関係が近づいたと実感できた時が、支援の中で一番うれしい瞬間でした。

応援コメント

しょうがい者に徹して寄り添う

当時、制度がなかった重度の方のグループホームを始めた時は、日中の仕事のかたわら、泊まり込んで支援にあたるなど、必要な人に必要な支援が提供できるよう、自ら先頭に立って行動する姿勢を学ばせてもらいました。元職場の同僚



戦争体験した父の思い受け継ぎ 平和・核廃絶活動

あみのさんの父親は、第二次世界大戦に複数回召集され、銃弾が足を貫通した傷跡もかかえて帰国。「戦争はどんなことがあってもやってはいけない」といつも語っていました。父親の想いを受け継いだあみのさんは、職場で社会に目をむける職員の集まりの責任者として、平和や人権について考える機会を広げる努力を行ってきました。



党市副委員長として市議とともに実現を推進

2019年秋に、市民の運動の力によって、国立市議会で「核兵器禁止条約への署名と批准を日本政府に求める陳情」が賛成多数で採択されました。陳情を提案した「核兵器禁止条約への署名と批准を日本政府に求める国立の会」の中心メンバーの一人として、同陳情署名を集める先頭に立ったのがあみのさん。市議会での陳述も行いました。

応援コメント

50年ぐらい前、私が原水爆禁止運動の団体に働いていた際、国立に平和委員会の若い会員がいることを知り、国立町の誇りに思ったことがありました。それがあみのさんでした。国立で長年取り組んできたあみのさんに、ぜひがんばってもらいたいです。

赤松 宏一
(原水爆禁止日本協議会 元代表理事)

応援コメント

東地域に公園が少ないことを心配して相談に乗ってくれたあみのさん。すぐに現地調査もしてくれ、市の職員に対策をもとめてくれました。地元の願いに寄り添う人です。

小沢 靖子
(東在住、「くにたちの高齢者福祉と介護保険を良くする会」代表)

あみの一也さんを推薦します

- 小倉 順子 (三多摩健康友の会国立支部長)
 - 柏木 隆之 (元国立市議)
 - 川口 智久 (一橋大学名誉教授)
 - 小坂橋義男 (年金者組合国立支部長)
 - 長坂 康子 (立川相互病院・産婦人科医師)
- (敬称略・50音順)